

平成 29 年度第 1 回新名取市図書館施設整備検討委員会議事録

会議名	第 1 回 新名取市図書館施設整備検討委員会	
日時	平成 29 年 5 月 31 日（水） 14 時 00 分～15 時 45 分	
場所	名取市図書館 南館	
出席者 【12 名】	委員 7 名	早川光彦、小木曾清、佐伯幹子、板橋正春、三塚玲子、 下澤なおみ、大野千春
	アドバイザー	岡本真
	事務局 4 名	生涯学習課 佐々木賢一課長補佐 図書館 柴崎悦子館長、加藤孔敬司書、石川雅一主査
欠席者	委員 2 名	天間環、長沼明子
傍聴者	なし	

1 委嘱状交付

◎事務局

平成 29 年度第 1 回新名取市図書館施設整備検討委員会開催前に、志賀先生がこの 3 月で退職されたことに伴い、交代という形で委員を小木曾先生にお願いすることになりましたので、会議前に委嘱状を交付します。

～ 委嘱状交付 ～

◎事務局

始めての方もいらっしゃいますので、お一人ずつ自己紹介をお願いします。

～ 委員及び事務局より自己紹介 ～

2 開 会

◎事務局

それではただ今より平成 29 年度第 1 回新名取市図書館施設整備検討委員会を始めてまいります。

会議成立していますが、2 名欠席となっています。

この会議は、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第 2 条の規定により公開の対象となります。

また会議録につきましては、名取市審議会等の会議の公開に関する要綱第 9 条の規定により、市政情報コーナーで会議を開催した日が属する年度の翌年度の 4 月 1 日から起算して 3 年間、閲覧に供される他、インターネット上、市のホームページに 1 年間公開されます。公開時の名前は、名字 ○○委員と表記されますのでご承知願います。

それでは開会に当たりまして、あいさつを早川委員長にお願いしたいと思います。

2 あいさつ

◎早川委員長

委員の皆さま、今年度もよろしく申し上げます。

新図書館が平成 30 年の冬の開館を目指し工事が進んでいるところです。形が見えてきたというのはとても楽しみなことで、あの姿は刻々と変わっていきますので、そのような写真を撮られているとよいだろうなと思いました。

今日は二冊本のご紹介であいさつに代えさせていただきたいと思います。

一冊目は「ネット時代の図書館戦略」という本で、最近読んだ図書館関係の本の中では非常に興味深いものです。アメリカの図書館のことを書いてあり、お手元に抜粋したものを配らせていただきました。抜粋の最後にありますように、名取市にとっても基盤の一つとして新図書館が出来上がっていくのだらうと思います。

二冊目は、ミヒヤエル・エンデが書いた「はてしない物語」で、現実の世界と本の中の世界を行き来するということから始まるわけですが、大人が夢を見なくなった時から本の中の世界が虚無という真っ暗な世界が広がり、それに主人公が立ち向かっていくという話です。名取の子どもたちにとって新図書館が虚無の世界ではなく、いろいろな希望を育ていける場になるだろうなと期待しています。

以上であいさつとさせていただきます。

◎事務局

はい、ありがとうございました。

3 前回会議の報告

それでは前回会議の報告になります。既に議事録を皆さまに送らせていただいておりますが、ご一読いただいているということで代えさせていただきたいと思います。

4 議事

(1) 図書館サービスの計画について

◎事務局

議事に入っていきますが、設置要綱第 5 条により議事の進行を早川委員長にお願いします。

◎早川委員長

それでは議事に入ります。(1) 図書館サービスの計画について、事務局から説明をお願いします。

◎柴崎館長

前回の会議で様々なご指摘をいただきましたところを修正しました。直した箇所が分かりやすいように新旧対照表を作りましたので、こちらを見ながらご説明します。

～ 新名取市図書館サービス計画（案）及び新旧対照表に沿って説明 ～
以上、ご意見やアドバイス等をお願いしたいと思います。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。今、柴崎館長より前回の会議で頂いたご意見を基に修正されたサービス計画（案）について説明がなされました。まずは（２）基本方針についてご意見を頂戴したいと思います。

◎下澤委員

基本方針①では乳幼児から高齢者までとあるが、具体的な取り組みでは高齢者サービスをシニアサービスとしているが、高齢者のままでもよいのではないか。

◎柴崎館長

シニアサービスのシニアとは、元気な高齢者というイメージで一般成人とは区切ってサービスを行うという捉え方ですが、ここでいう高齢者はもっと上の世代も含めて考えたものです。

◎早川委員長

シニアサービスはサービス名称のようなものと捉えることができるかと思いますが、ここの表現についてのご意見をお願いします。

◎板橋委員

全ての年代を含めていますので、高齢者という表現のままでよいと思います。

◎佐伯委員

シニア層ではどうでしょうか。シニアサービスという表現につながるとは思います。

◎板橋委員

全ての世代という部分とシニアという部分では、館長がおっしゃったように意味が違うのではないかと思いますので、このままでよいと思います。

◎小木曾委員

P10 でシニアのことを定義していますし、前の議事録にもありましたが外出が難しい方も含めて検討されてることを考えますと、P2における高齢者は、シニアよりもさらに広い意味でこのままがよいかと思います。

◎三塚委員

私もこの場合は高齢者のままが合うと思います。

◎岡本アドバイザー

分かりやすい表現がよいと思います。ひねった表現にしてしまいますと注釈をつけなければならなくなります。

最近が高齢者に対する図書館サービスの研究会のようなものが始まったりしていますが、超高齢化社会を見据えた話は出ていますので、表現としては妥当なところだと思います。

◎早川委員長

では表現についてこのままとします。それと字句についてですが、障害者と障がい者とありますが、統一した方がよいと思います。

◎柴崎館長

障がい者で統一します。

◎小木曾委員

身体に障害があったり、～とありますが、「～たり、～たり」でなくてよいのでしょうか。

◎早川委員長

例えば、身体に障がいがある方、という表現ではどうでしょうか。

◎柴崎館長

～や～、～とした方がよいでしょうか、それとも～、～や～とした方がよいでしょうか。

◎早川委員長

最初に接続させてしまう文章の書き方はよくあります。

◎岡本アドバイザー

身体に障がいがある人や交通事情による来館が困難な人等、とすればよろしいと思います。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。

では⑤はどうでしょうか。 特にご意見が無いようですのでこのままとします。

次に（１）乳幼児サービスについてはどうですか。同じくご意見が無いのでこのままとします。

次に具体的な取り組みの②、③についてはどうでしょうか。同じくご意見が無いのでこのままとします。

次に（３）ヤングアダルトサービスにおける「中学生・高校生」を「中学生・高校生など」としたことですが、「など」には大学生・専門学校生・働いている人も含まれますので、このままとしてよろしいでしょうか。ご意見がありませんので、このままとします。

では、次に（４）シニアサービスになりますが、ご意見をお願いします。

◎大野委員

定義についてはこのままでよいと思います。

◎板橋委員

利用対象者別サービスというのは年代別に分けられていると思います。その中でシニアサービスはアクティブなシニアに限定している感がありますが、一方アクティブではない人も図書館を利用するわけで、この表現のままで果たしてよいのかなと思います。

◎柴崎館長

伝えたかったことは身体が不自由でないかということになるのですが、前期高齢者・後期高齢者と年齢によって区切るのも違和感がありますし、定年退職を区切りとする考え方もある中で、やはり一般成人へのサービスとは違ったサービスを提供できないかという思いもあって、このように書いてみました。非常に悩ましいのですが、ぜひご意見を頂戴したいと思います。

◎大野委員

この部分は一方向的にサービスを受ける方ではなく、自分達でいろいろなことを立ち上げるシニアのことを指していると考えれば、このままでよいと思います。

ただ①「ゆとりある生活」とはどういう意味なのか、この点が気になります。

◎板橋委員

私も基本的にはこのままでよいのですが、利用者対象別サービスは年代別に分けているサービスなのかと思いきや、シニアサービスについては意欲的で元気な方を焦点にしているの、そうではない方との区別をどのように分けることができるのかなと思ったわけです。

◎大野委員

(1) 乳幼児サービスから (3) ヤングアダルトサービスについては年齢別に、(4) シニアサービスから (6) 行政機関へのサービスについては目的別にはできないのでしょうか。

◎三塚委員

図書館に早くから来館して、ゆっくり過ごしている利用者の現状を教えてください。

◎柴崎館長

男性で定年退職したと思われる年齢の方は、比較的早い時間から新聞を読み、そのまま長時間図書館で過ごすことは多いです。今の図書館は狭いですので、場合によっては喧嘩になることもあります。

◎三塚委員

何か活動しようとするシニアだけではなく、ゆっくりとずっと過ごしたいと考えているシニアの方もいらっしゃるということも現実なのでしょうね。

◎柴崎館長

アクティブシニアの部分は外してもよろしいでしょうか。

◎岡本アドバイザー

あくまで自由な立場の市民の特定の生き方を強制するような印象を与える可能性がありますので、行政が出すものとして考えると外した方がよいと思います。図書館としては、より発展的な活動的な人生の過ごし方をしていただくきっかけになった方が望ましいとは思いますが、ゆっくり過ごすというのも個人の自由といえます。

後半で積極的な社会参画企画をつくると謳っていますので、図書館の姿勢として示してよいかなと思います。

最近筑波大学で超高齢社会と図書館研究会が最近発足されましたが、認知症予防として図書館を活用しようという動きがあります。これは元々北欧中心に進んでいる活動なのですが、おそらく今後この部分は取り組まなくてはいけない課題であると思いますの

で、ただ場を提供するだけでなく、様々な社会参画機会を提供していくことをここで打ち出すというのはよいのではないかと思います。

◎早川委員長

オープンと同時に来館されて、新聞や雑誌を読まれたりDVDを鑑賞されたりし、お昼を挟んで、午後も図書館を利用されるというような利用形態は新しい図書館でもすぐに見られると思いますが、そんなに多くもないと思います。以前の高齢者というようには当てはまらない、多様な図書館利用を想定しておくところが大事だろうと思います。

そういうことも踏まえたと、岡本アドバイザーがおっしゃったように最初の部分は外した方がよいかと思います。

◎小木曾委員

社会貢献といいますと、元気なシニアの方が何か発信するというイメージがあり、それが情報発信コーナーにもつながり、そのような場を提供します、という意味のサービスなのかと思いました。そういう情報発信ということであれば、シニアの方ばかりではなく若い方もやりたいと思う人はいるでしょうし、受ける側だけのことを謳っているのか発信するところまで含めて謳っているのか、どこまでのことをいうのでしょうか。

◎佐々木補佐

生涯学習という視点で考えますと、お互いに学び合う視点というものもありますので、アクティブな方やそうではない方も図書館に集った中で、別の方から何かを学ぶような捉え方もできるのではないかと思います。

◎早川委員長

ここままで一度整理させていただきます。まずはこのままでよいというご意見、次にシニアに関する最初の説明は削除した方がよいのではないかというご意見、それと後半の部分についてこのままでよいのではないかというご意見となります。

高齢社会への対応として、利用者の実年齢は上がっていくわけですが、そのことに伴い必要となる知識や情報はあるわけですが、それを図書館で入手できるというのは大事なことだと思います。つまり高齢者が必要とする情報提供に力を入れるというのは求められるサービスの一つだと思います。通常この部分は読書拡大機のことなど、身体的な衰えに対するサービスが書きこまれるのですが、そのことは今回障がいのある人へのサービスの方に入っています。

そのことを踏まえたうえでご意見を伺います。

◎板橋委員

後半で必要となるサービスのことが謳われていますので、最初の部分だけ削除すればよいと思います。

◎早川委員長

図書館は、元気な人ばかりでなく、何らかの事情で意欲や活力を無くしている方も自由に使える施設で、そこがまた魅力ある部分ともいえると思います。

◎岡本アドバイザー

もっと大きな図書館の役割を謳っている部分として、P3の「やすらぎ」・・・やすらぎ、憩える図書館、にかかっています。これは図書館がただ過ごす場所でもあることを明確に打ち出していますので、バランスが取れているとみてよろしいのではないのでしょうか。

したがって図書館を応援する活動に熱心なシニアの方を別とし、一般的には元気なシニアの方はなかなか図書館使わない中、アクティブシニアの活躍できる場になり得るといメッセージを出すことはよいのではないかと思います。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。では最初の定義の部分を削除ということでよろしいでしょうか。よろしいようですので、次に新旧対照表の具体的な取り組みについてご意見をお願いします。

◎大野委員

「ゆとりある生活」というと、経済的にゆとりがあるという意味合いが出てくるような気がして、もう少し良い言葉は無いでしょうか。

◎三塚委員

「豊かな」というのはどうでしょうか。

◎下澤委員

「生活をより豊かに」というのはどうでしょうか。

◎早川委員長

「豊かな生活を営むために」という言い方もあると思いますが、ここの部分は「豊かな」という言葉を用いるということでよいのでしょうか。ご意見が無いようですのでこの

部分は変更します。

また、④についてもこのままでよろしいでしょうか。同じくご意見がありませんので、このままとします。

◎柴崎館長

サービス計画（案）P9の利用対象者別サービスの下に定義や理念のようなものを書き加えたいと思いますが、いかがでしょうか。

◎早川委員長

今の柴崎館長の発言は、これまでの議論を踏まえた上でのものだと思いますが、より分かりやすくなりますのでよろしいかと思います。（委員一同 了解）

それと確認なのですが、今後の取り扱い等を含めた説明をお願いします。

◎柴崎館長

サービス計画についてこれまで3回ご審議いただきました。今後はこの計画（案）をどのように位置付けていくのか、教育委員会事務局内におきまして正式な計画となるように手続きを取りたいと思います。

◎早川委員長

はい、ありがとうございます。その他ご意見何かありませんか。

◎大野委員

先ほどのP9の利用対象者別サービスの下に定義を付け足すということですが、体裁の問題ですが、P2の「1 サービスの基本理念と基本方針」のところにも一言付け足さないとバランスが悪いような気がします

◎板橋委員

意識して幾つかの書体で書かれているのでしょうか。

◎柴崎館長

見やすさで統一したいと思います。

◎早川委員長

字も12ポイントでまとめられていますので、より見やすくまとめて頂けたらと思います。その他ご意見ありますか。

◎三塚委員

確認ですが、午後7時以降について全館行き来できるのでしょうか。

◎柴崎館長

行き来できます。制限するのは朝だけとなります。

◎早川委員長

他に無ければ、この議題については以上とします。

(2) その他

◎早川委員長

では次に(2)その他ですが、委員の皆さまからありますか。無いようですので、事務局からお願いします。

◎柴崎館長

現在、市図書館の個人ボランティアは38名おりまして、その他お話しのボランティアが2団体、布絵本を作るボランティア1団体を含めると、延べ83名の方が市図書館を応援してくださっています。震災後から登録制にしており、毎年10名前後の方の入れ替わりがありますが、すでに120名から130名の方が何らかの形で市図書館を支えてくださり、またボランティア活動していなくても応援したいとおっしゃる方もいます。

今、新図書館の開館に向け準備を進めているところですが、その一つとしてそのような方々をまとめるような友の会のような市民組織の立ち上げができないか考えています。

そこで、そのことを知っていただく機会と市民意識を高めることを目的に、秋頃から3回程度ワークショップを開催したいと考えています。お手元の資料はそのプランを岡本アドバイザーに作っていただいたものになります。

1回目	9月18日(月)午後	文化会館小ホール
2回目	10月15日(日)午後	文化会館会議室(予定)
3回目	12月2日(土)午後	文化会館会議室(予定)

残りの2回の検討委員会は、このワークショップの特に1回目と3回目に参加していただき、各グループのリーダーのような役割を担っていただき、それをもって検討委員会に代えたいと考えています。

詳細について、岡本アドバイザーから説明していただきます。

◎岡本アドバイザー

今回のライブラリーミーティングの大きな目的は、図書館友の会の設置です。

ライブラリーフレンズとも呼ばれ、アメリカのほとんどの図書館には組織づくりされています。日本ではアメリカに比べさほど普及していませんが、図書館活動がうまくいっている地域では、この取り組みが盛んに行われています。既存の図書館ボランティアの方が排除されるというのではなく、フレンズ組織があることによって、図書館に関わる全ての人々が共通して参加できる土俵をつくっておこうというものです。

ワークショップに関しては2枚目を見てください。3回の構成を考えています。

1回目は私から図書館における市民協働の事例や取り組みは、どのようなものがあるのか説明したいと思っています。そこで共通理解ができた上で、新しい図書館ができたなら皆さんがどのように使っていきたいかアイデアを出してもらいたいと思っています。おそらく今の図書館ではできていないが旧図書館でできたことの復活、交通アクセスが良くなることに伴い仙台等へ通う高校生をターゲットにした何か等のアイデアが出てくると思われます。

2回目以降は、それを実現するためにはどのようなステップが必要かを考えていきたいと思っています。挙げたアイデア全ての実現は予算上難しいですが、行政がすることなのか、市民側が主体的に行うことなのか、両者が協力し合うこと（協働）なのか、パターンを分けて共通の理解をつくっていききたいと思っています。

3回目は、この実現のためにどのような組織体が必要なのか、どのような枠組みをつくれればよいのかを皆さんで話し合っていければと思います。

この3回のワークショップを通して一気に友の会をつくらうというわけでは決してありません。そのための雰囲気をつくっていくということです。実際には結構難しく市役所側が押し切ってやり遂げようとしても決してうまくいきません。市民の皆さんが楽しいと思える形にするのと、機が熟す促すためにこのような機会をつくることは良いことだと思います。

新年度になれば名取駅前に巨大な建物が出現し、新図書館オープンの実感がわいてきますので、そういう会の発足につながればと思っています。

一つの理想形として、福井県鯖江市の図書館があります。そこには図書館友の会があり、7~80,000人の市民に対し、300人以上の会員があり、この数は相当なものといえます。図書館内にあるカフェの運営も受託しており、図書館と協働で毎月1回、閉館後ライブラリーカフェという、様々な方をお招きしてお茶やコーヒーを飲みながら語り合うというイベントを10数年続けています。日本の図書館としては圧倒的で、そのような活動が評価されて2014年ライブラリーオブイヤーに選ばれています。行政や市民問わずみんながいっしょになって地域文化を創っていくところが素晴らしいと思っています。鯖江市は北隣に福井市という巨大な都市があり、また合併しないという選択をしてきました。自治体状況としては名取市と似ている構造だと思っています。鯖江市は、地域文化を自分たちで発信していくことで、福井市とは違う鯖江市の文化を保ってきていると感じています。名取市も同様に十分にやっつけたいと思いますので、みなさんどうぞご参加ください。それと知り合いの若い方に声をかけていただきたいと思います。といいますのは、このようなタイプの会はなかなか若い人が

参加しにくいということがあります。特に10代の子たちが名取に住み続けていくために図書館が求められることは何か、ぜひご意見を出していただけたらと思います。

それともう一つ重視しているのは、震災以降、名取市図書館に非常に心を寄せてくださっている全国各地の方々がいらっしゃいます。この6年間たくさんの方がここを訪れていて、図書館まつりの際は遠方からお越しになっている方もいらっしゃいます。ぜひその方々も取り込めたらよいのではないかと思います。そういう方が常に心を寄せて支援してくれている関係を築けると、せっかくできたご縁を活かして名取市の魅力を発揮していけたらよいなと思います。

◎板橋委員

参加者数30名とはどういうことでしょうか。

◎岡本アドバイザー

グループワークしていただくことになるのですが、市図書館やアカデミック・リソース・ガイドの職員が各班に入り、話し合いの進行をお手伝いするファシリテーターを担って見切れる分から出したものです。ただし、仮に大幅に増えて50人となったとしても、良いことですので意地でもやった方がよいと思います。

◎大野委員

新図書館開館の部分を強調するような募集をしたらよいと思います。

◎佐伯委員

どのように募集するのでしょうか。

◎柴崎館長

広報やホームページ、チラシを作成し各公民館や学校への配布をすることになると思います。

◎早川委員長

委員の皆さんがお声掛けしたら相当集まると思います。

◎岡本アドバイザー

つい最近富谷市で行ったワークショップでかなり意識して中高生が参加するようにしたのですが、実際に参加してくると、中高生が出してくる意見を大人がより良くしていくという、ファシリテーターの導き方にもよるのですが、振る舞いが変わります。

出される意見をつぶすのではなく活かすような方向に行くと議論が発展的になっていきます。

◎小木曾委員

もしよろしければですが、8月17日に市内小・中学校の先生方が集まる教科研究会がありますが、そこでワークショップを実施することを説明していただけると中学生への呼びかけがしやすくなると思います。その日説明して頂けますか。

◎柴崎館長

今からでも時間の調整は可能でしょうか。

◎小木曾委員

大丈夫です。できれば新しい図書館についても説明して頂けますか。

◎柴崎館長

お話しできる機会を作って頂けるのなら大変ありがたいです。ぜひお願いします。

◎大野委員

漫然と中学生にワークショップのことを伝えてもなかなか参加にはつながらないでしょうが、先生方を通じ図書委員になっているような子に伝えれば参加につながると思いますし、建設的な意見も出てくるのではないかと思います。

◎柴崎館長

2回目、3回目については、初回に比べ参加者数からは少なくなると思われしますので、文化会館の会議室を予約したいと考えています。

◎早川委員長

以上、図書館からのお知らせと委員皆さんへのご協力のお願いということになりますが、やはり若い世代の人たちが何らかの関わりを持って図書館に出入りしているというのは、雰囲気非常に明るくなりますね。

では、議事について終わらせていただきますので、進行を事務局へお渡しします。

◎事務局

ありがとうございました。議事以外でその他ありますでしょうか。

無いようですので、以上をもちまして終わらせていただきます。

お疲れ様でした。